



令和2年第1回定例会 予算特別委員会

去る3月2日から第1定例会が開会しました。私は17日(火)の予算特別委員会で2番手として質疑を行いました。令和2年度の予算案では、一般会計及び6つの特別会計を合わせて約644億8,800万円で、前年度から34億7,700万円の増額ですが、一般会計だけを見ると、45億5,900万円と、前年比10.1%増の予算となっています。

次の10年に向けて～第7期総合計画の策定が始まります

千歳市は、現在の第6期総合計画の実行期間が2020年度で終了することに伴い、2021年度～2030年度までの10年間を実行期間とする第7期総合計画の策定準備を2019年から進めてきました。山口市長はすでに人口10万人を目指す新たな人口ビジョンを元に、各種のプロジェクトを始動させることを表明しています。私はこの度、議員13人で構成する「第7期総合計画調査特別委員会」のメンバーに加わることになりました。

令和2年度は、総合計画や各種の個別計画策定が16にも及びます。今回の予算特別委員会では、そのうち委託料を計上している13の事業費について、その用途を尋ねるとともに、市民参加の余地を拡充する考えがないかを問いました。これまでも行政計画を策定する際には、情報公開とともに広く一般市民の意見を吸い上げる機会を設けるよう議会において再三求めてきたところですが、今回も市民意見の吸い上げについては、アンケートやパブリックコメントに留め、直接市民からの意見を求める機会を設ける予定はないとの消極的な答弁でした。

皆様も「2040年問題」という言葉をお聞きになったことがあると思います。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年には高齢者1人を1.5人の現役世代で支えなくてはならなくなり、高齢者人口は3,868万人でピークを迎えるほか、消滅可能性自治体は約900にも及ぶと予測されています。千歳市はこの消滅可能性自治体には含まれていないものの、これから先の未来が決して明るいわけではありません。次の第7期総合計画は、2040年に向かう前半の10年でもあります。限られた財源を使ってどのような社会の形成を目指していくのか…当然、市民の多様な想いが計画のなかに色濃く反映されなければなりません。今のような旧態依然とした計画の持ち方では、今後予想される深刻な経済危機や社会保障等の課題に対応できなくなるのではないかと憂慮するところです。この点については、これから始まる委員会の中で逐次意見を述べていくつもりでおりますが、市民の皆様からの広範なご意見もぜひお聞かせください。

《質疑項目》

- 1 総合計画、各個別計画の策定等について
 - (1) 委託料
 - (2) 計画への市民参加の余地
 - (3) 根拠法令、条例等
 - (4) 計画の持ち方、考え方
- 2 総務費について
 - (1) 姉妹都市(指宿市)職員交流派遣経費
- 3 教育費について
 - (1) 埋蔵文化財センター管理業務経費
 - (2) 文化材普及啓発事業費
 - (3) 縄文遺跡群世界遺産登録推進事業費
- 4 令和2年度予算の運用について
 - (1) 新型コロナウイルス関連対策

北海道自治研究 2月号に拙稿が掲載されました



前号でもお伝えしたとおり、昨年 11 月に行った議員と富丘中学校 3 年生との交流学習会の内容に基づき、12 月の第 4 定例会において一般質問を行いました。その内容を記載した私のコラムを、北海道自治研究 2020 年 2 月号の議会改革短信に掲載していただきました。

前述の次期総合計画についても言えることですが、10 年後には 25 歳になっている彼らの意見も、これからの千歳市の将来像を考えていく上で大切に受け止めなくてはならないと考えます。彼らが安定した生活基盤を持って結婚や子育てをできる環境を築くことは、現在社会の中心にいる私たち大人に課せられた使命であり、持続的に発展する千歳市の未来を担保する最低限の条件だと思うからです。皆さんはお子さんやお孫さんたちが暮らす 20 年後にどんな財産を残したいでしょうか。

新型コロナウイルス関連対策について

年明けから世界で猛威を振るい始めている「新型コロナウイルス」ですが、つい先日コメディアン志村けんさんが感染されて急逝し、また東京オリンピックの 1 年延期が決まるなど、政府の緊急事態宣言発令に呼応するかのよう、私たちの生活にも強い衝撃と暗い影を落としています。当市では今のところ 2 月中に発症した 2 名の罹患者のみですが、まったく油断はできません。3 月 6 日に出された市長メッセージでは、「市では、私をトップとする『新型コロナウイルス感染症対策会議』を設置し、市職員に対しては、北海道と連携を図りながら、全庁一丸となって市民の皆様の不安に向き合い、感染拡大防止に取り組むよう指示している」とのことです。この感染予防対策について、私は改めて 3 月 17 日の予算特別委員会の中で、新型コロナウイルス感染対策についての市の姿勢を質し、横田副市長からも「日々変化する状況に迅速かつ的確に対応する」との答弁をいただいたところではありますが、私は、「セーフティネットは基礎自治体であるから、市民の心に寄り添い情勢変化に素早く対応できるよう抜かりなく取り組んでいただきたい」と念を押させていただきました。

また、医療や保健衛生関係の行政課題を審査する厚生環境常任委員会の委員長の立場から、別途、的確な市民への情報開示として、市のホームページのトップにコロナウイルス関連情報を掲示すること、また感染予防対策の周知徹底についても、市長名で強いメッセージを発していただくよう、保健福祉部長を通して要請しました。市中では市販のマスクや消毒用アルコールの入手が困難となっています。石鹸でのこまめな手洗いや手作りマスク等の代替品を用いて、市民各自が感染予防に努めていただくようお願い致します。

市政や議会に関するあなたの疑問やお困りごとを是非北山けいたにお聞かせください。



メール: mail@kitayama-keita.com

ホームページ: <http://kitayama-keita.com>

私、「北山けいた」は、「公正・公平」な社会と、お子様からお年寄りまですべての世代が笑顔で生活できる環境の形成を目指しています。皆さまの市政に対する素朴な疑問をご遠慮なくお寄せください。また、市民参加型の市政運営を目指して、様々な市民活動も積極的に支援しております。

お問い合わせは上記のメールからお願い致します。

ちとせみらい通信は私の想いを届けるかわら版です。

